

# 死んだ人への祈りの世界一お墓



死んだ人があの世でも幸せに暮らせるように願って見送ったんだね。

## 1 埋葬について

縄文時代のお墓は、地面を楕円形に掘り、そこに遺体を埋めた「土坑墓」と呼ばれるものが一般的です。目印に木や石の墓標を立てていることもあります。

普通、遺体は、手足を曲げた「屈葬」と呼ばれる状態で埋められます。手足を曲げるのは、赤ちゃんが生まれるときと同じ姿勢にして、あの世での新たな誕生を願っていたものと考えられます。

遺体を埋める前に、穴の底にベンガラと呼ばれる赤い顔料を敷いたり、遺体に振りかけることもありました。縄文人は、赤いベンガラが魔除けと血の赤のイメージから、魂の再生を助ける意味もあると考えていたことが想像できます。

## 2 遺体に添えられたいろいろな遺物

お墓の発掘調査を行うと、死んだ人が日常的に身に着けていたアクセサリーのほか、土器や石器、土偶が遺体に添えられていることがあります。

恵庭市にある縄文時代後期（約3,300年前）のカルンバ遺跡では、一つの穴に数人が埋葬された「合葬墓」が発見され、その中から、漆を塗って作った櫛など、いろいろな飾りや石のネックレスがたくさん見つかりました。死んだ人にいろいろな飾りを着けて手厚く埋葬したのではないかと考えられています。

このように、北海道の縄文時代のお墓は、本州に比べると、遺体とともに発見される遺物が多いという特徴があります。北海道の縄文人は、死んだ人をあの世へ送るため、遺体にいろいろな飾りや衣服を着け、さらに土器や石器も添えて手厚く埋葬したようです。



30-1 人骨と小玉が出土した土坑墓（どこうぼ）（千歳市美々4遺跡）



31-1 アクセサリーを着けた成人男性の埋葬人骨（礼文町船泊遺跡）



31-2 埋葬された成人男性の復元図  
（国立歴史民俗博物館 2000）



31-3 埋葬された成人女性の復元図  
（国立歴史民俗博物館 2000）



31-4 アクセサリーを着けた成人女性の埋葬人骨（礼文町船泊遺跡）



31-5 副葬品の多数みつかった合葬墓（恵庭市カリンバ遺跡）



31-6 多数のアクセサリーを着けて埋葬された人の復元図  
（上屋編 2003）

# マツリと死者を送る広場 — 環状列石



場所もちゃんと考えて、重い石を運んで作ったんだね。

## 1 環状列石とは

環状列石は、石を一定の範囲で円形に並べたもので、ストーンサークルとも呼ばれています。縄文時代前期の時期に長野県の中部山岳地帯で造られ始めたようですが、縄文時代後期以降になると、北海道と北東北に大規模なものがみられるようになります。環状列石は、墓地やマツリの場と考えられ、造られる場所は、周囲の山や季節による太陽の日の出・日の入りの方向と強い関係があると考えられています。

## 2 環状列石の種類

秋田県の大湯環状列石は、真ん中に立った石を中心に円形に石を並べた日時計型と呼ばれる小型の配石がいくつもあり、それらが集まって大きな環状列石を作っています。そして、その小さな配石の下にはお墓があり、小さなお墓が集まって、大規模な共同墓地となっています。

青森県の小牧野遺跡や北海道の鷲ノ木遺跡の環状列石は、二重、三重の配石が造られていますが、石の下にお墓はなく、マツリの時に利用された広場と考えられます。

小樽市の忍路環状列石は、江戸時代から知られたもので、明治16年に環状列石としては、日本で初めて発掘調査が行われました。現在は、長さが1mを越える柱状の石が100本も立っていますが、これは大正時代に復元されたもので、縄文人が造った時の形などはよくわかっておりません。

しかし、縄文人が遠くから石を運んで造ったものであることは間違いありません。



32-1 大規模な環状列石 1 (秋田県大湯環状列石)



32-2 大規模な環状列石 2 (青森県小牧野遺跡)





33- 1 道内最大の環状列石（森町鷲ノ木遺跡）



33- 2 道内の環状列石 1（小樽市忍路環状列石）



33- 3 道内の環状列石 2（小樽市地鎮山環状列石）



33- 4 道内の環状列石 3（余市町西崎山環状列石）



33- 5 道内の環状列石 4（深川市音江環状列石）

# みんなで作る共同墓地—周堤墓しゅうていぼ



家族や親類、みんなで協力してこんなに大きなものを造ったんだね。

## 1 周堤墓しゅうていぼとは

周堤墓しゅうていぼは、円形の大型の堅穴たてあなほを掘り、その掘った土を周囲にドーナツ状に盛り上げ、堅穴たてあなの中にお墓を作ったものです。つまり、縄文時代じょうもんの共同墓地です。

後期の終わり頃ごろに北海道でのみ造られ、千歳市ちとせ、恵庭市えにわ、芦別市あしべつなどの道央と、斜里町しゃり、標津町しべつなどの道東地域ちいき、合わせて13か所の遺跡いせきでみつかっています。

家族や親類しんるいの人々が、その絆きずなを強めるために、長い時間をかけて大土木工事を共同で行いました。また、大型の住居しゅうていぼのような周堤墓は、死んだ後も生きていた時と同様に仲間いっしょと一緒にいっしょにられる、という強い絆きずなを感じていたものと考えられます。

## 2 周堤墓しゅうていぼの種類しゅるい

新千歳空港ちとせの滑走路建設かつそうろの時には、美沢川流域みさわの美沢1・美々4・美々5遺跡いせきの3か所の遺跡いせきで大小16か所の周堤墓しゅうていぼが調査されました。

美沢1遺跡みさわでは、見晴らしのよい高台たてあなに6か所が見つかっています。堅穴たてあなの直径は8～16m、周堤しゅうていは最大で直径24m、お墓の数は、多いもので17個あります。

お墓の穴あなの形は細長い楕円形だえんけいで、長さは1.5m、幅はばは0.6～0.7m、深さは1.2～1.3mほどです。遺体いたいは、体を伸ばした伸展葬しんてんそうと呼ばれる形で埋められ、中には複数の遺体いが埋められた合葬墓がっそうぼもあります。

穴あなの底には赤い顔料のベンガラしが敷かれ、遺体いに添えられた副葬品そには、石斧ふくそうひんには、石斧ふ、玉うでわ、貝の腕輪せきぼう、石棒せきぼうなどがありました。

国道337号を千歳市ちとせから長沼町ながぬまへ向かう途中、高速道路千歳インターチェンジを過ぎたあたりの木立の中に、月のクレーターのような形をした直径数十mの大きな凹みくぼがいくつかあります。

ここが、国指定史跡しせきのキウス周堤墓群しゅうていぼで、周堤しゅうていの外径75m、内径35m、高さが5.4mもある道内最大の周堤墓しゅうていぼです。





35-1 新千歳空港建設の時に調査された周堤墓（千歳市美々4遺跡）



35-2 周堤墓の墓穴（苫小牧市美沢1遺跡）



35-3 道内の周堤墓1（芦別市野花南周堤墓群）



35-4 道内の周堤墓2（斜里町朱円周堤墓群）